

東北学院大学教育総合研究所2024年度活動

1. 教育研究所報告集第24集 配布・発送:2024年3月

学内配布88部 学外発送108部

2. 所員会議 2024年5月9日 16:00～16:30

場所：L610教室（五橋キャンパス講義棟6階）、対面開催

出席者（敬称略）：

千葉昭彦（経済学部）、紺野祐（文学部）、加藤卓（文学部）、松本進乃助（文学部）、
清多英羽（文学部）、大迫章史（地域総合学部）、泉山靖人（地域総合学部）、
高橋千枝（文学部）、稲垣忠（文学部）、中野優子（教養教育センター）、
佐藤正寿（文学部）、遠海友紀（教養教育センター）、清水遥（文学部）、
長島康雄（文学部）、齋藤渉（教養教育センター）、千葉真哉（教養教育センター）、
坪田益美（地域総合学部）、斎藤珠代（教養教育センター）、
清水貴裕（地域総合学部）、リースエイドリアン（教養教育センター）

欠席者（敬称略）：

神林博史（人間科学部）、楊世英（教養教育センター）、原義彦（地域総合学部）、
大友麻子（文学部）、金永昊（教養教育センター）、渡辺通子（文学部）、
大門耕平（文学部）、岸浩介（教養教育センター）、角田仁昭（教養教育センター）、
中村教博（教養教育センター）、一柳貴博（地域総合学部）

1. 報告

（1）2023年度予算決算

2023年度教育研究所予算の各項目の執行状況報告

（2）2023年度の学会参加

昨年度実施の学会参加内容確認

オンライン参加の参加費のみ執行 旅費の執行なし

2. 審議事項

(1) 今年度の活動計画

- ①図書・消耗品について購入希望を随時受け付けている。
- ②以下の学会・研究会への参加状況と、今後の開催状況について確認した。
 - ・第46回大学教育学会（ハイブリット形式）
⇒参加者：千葉真哉先生（対面参加）
 - ・第73回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会（対面形式）
⇒参加者：岸浩介先生
 - ・大学教育学会2024年度課題研究集会（対面形式）
⇒参加者：遠海友紀先生
 - ・第31回京都大学教育研究フォーラム（京都大学）
⇒学会の詳細が決まり次第、参加者を募集する。
例年、1月上旬頃に詳細が発表される。

(2) 報告集第25集の編集方針について

執筆申込締切りを10月31日（木） 稿締切りを12月18日（水）とし執筆を依頼することにした。

(3) 2024年度予算編成について

教育総合研究所の活動としてシンポジウム、講演会を開催の提案について各部門長を中心に相談いただきながら案を出していただき、運営委員会で検討し決めると説明した。

(4) 研究所の書棚にある書籍整理について

所長と運営委員で教育総合研究所で必要のない書籍をリストアップし書棚を整理することを説明した。

以上

教育総合研究所参加の2024年度学会・研究会

以下、教育総合研究所が機関会員になっているFD関係の学会ならびに所員が継続的に参加している研究フォーラム等の2024年の活動を報告します。この種の学会やフォーラムに参加を希望される教職員は、本学の「FD推進委員会」管轄の旅費をご活用下さい。詳しくは、各学部のFD推進委員会委員にお問い合わせ下さい。

1. 大学教育学会第46回大会

会場校：関西国際大学 神戸山手キャンパス

日 時：2024年6月8日(土)、9日(日)

参加者：千葉 真哉

形 式：対面形式（オンライン配信なし）

統一テーマ：「大学教育は持続可能か？～ポストコロナ、急激な少子化、AIの脅威に
日本の大学教育はどう立ち向かうのか～」

大会プログラム

第1日：6月8日(土)

8:30

受付開始

9:00 - 9:45

初めて参加する人のためのオリエンテーション

10:00 - 12:00

ラウンドテーブル

12:00 - 13:00

昼食

13:00 - 13:40

事業報告会

13:50 - 14:00

開会行事（会長挨拶、開催校学長挨拶）

14:10 - 15:00

基調講演：

講師：張 済国氏（韓国大学教育協議会前会長・東西大学校総長）

演題：韓国大学教育からみた日本へのインプリケーション

15：10－17：30	シンポジウム
	シンポジスト：
	張 濟国 氏（同上記）
	大森 昭生 氏（共愛学園前橋国際大学学長）
	青山 貴子 氏（山梨学院大学学長）
	伊藤 学司 氏（文部科学省大臣官房審議官（高等教育担当））
	モデレーター：
	濱名 篤 氏（関西国際大学学長）
17：45－19：15	情報交換会
第2日：6月9日（日）	
9：00	受付開始
10：00－12：00	自由研究発表Ⅰ
12：00－13：00	昼食
13：00－15：00	自由研究発表Ⅱ

参加したセッションの内容と所感

1. 初めて参加する人のためのオリエンテーション

今大会である大学教育学会第46回大会は、私が大学教育学会にはじめて参加する大会となった。本プログラムは、学会の概要説明、ラウンドテーブルの実施方法、研究発表方法、次回の研究集会、次回大会、さらにはJACUEスクールの案内などの説明があり、初めて参加する者にとっては非常に有意義なものであった。

2. ラウンドテーブル「ラウンドテーブル4 大学入学までの探究活動の体験との接続を考える—新学習指導要領で学んだ2025年度新入生を迎えるにあたって—」

高校での学習経験の変化と大学教育を繋ぐ課題や意義についての議論であった。2025年度新入学生は新学習指導要領のもと、主体的・対話的で深い学びや協働的な探究活動を経験して大学に入学してくる。それを踏まえ、大学初年度の探究系科目やカリキュラムのあり方、高校での探究体験を活かす授業の課題、探究活動を大学教育にどのように活かすのか、また、学生の成長をどのように評価、測定するかについて議論した。探究系の学修で先行する岡山大学、九州大学、大阪大学、東京大学の事例をもとに議論が行われた。当職が担当する講義に大きく関係する内容となっており、直接的に職務に関連する多くの示唆を得ることができた。

3. 基調講演「韓国大学教育からみた日本へのインプリケーション」

張 済国 氏（韓国大学教育協議会前会長・東西大学校総長）

現在の韓国における大学事情の紹介があり、日本と共通もしくは異なる事情について理解することができた。首都圏への一極集中、急激な少子化は、日本よりも韓国の方が進んでおり、共通する大きな問題として捉えることができる。また、大学への国、政権の関与、大学の財政事情は韓国の独自の事情があり、非常に厳しい状況を把握することができた。地方大学の改革についても新たな発想の端緒となる講演であった。

4. シンポジウム「大学教育は持続可能か？ ～ポストコロナ、急激な少子化、AIの脅威に日本の大学教育はどう立ち向かうのか～」

シンポジスト：張 済国 氏（同上記）

大森 昭生 氏（共愛学園前橋国際大学学長）

青山 貴子 氏（山梨学院大学学長）

伊藤 学司 氏（文部科学省大臣官房審議官（高等教育担当））

モデレーター：濱名 篤 氏（関西国際大学学長）

関西国際大学の濱名学長の軽快な司会でシンポジウムが行われた。大森共愛学園前橋国際大学学長、青山山梨学院大学学長、伊藤文部科学省大臣官房審議官からのプレゼンがあり、特に大森共愛学園前橋国際大学学長の「地域とともにあるという大学という覚悟 地域に必要とされない大学が生き残れるはずがない」、「大学にとって重要なこと、学生にとって重要なこと、それが学修者本位となっているか」とのメッセージと説明に感銘を受けた。

5. 情報交換会

旧知の研究者とコロナ禍以降に久々に親交を深め、多くの有意義な情報を交換することができた。また、旧知の研究者からの紹介により、新たなネットワークを築くことができた。これらの関係性は今後の研究活動において非常に役立つものと思われる。

6. 自由研究発表Ⅰ：部会8 教育方法・教育改善（2）

10：00～10：20 文理融合教育・STEAM 教育のカリキュラム開発に関する実践的考察～金沢大学「知識集約型社会を支える人材育成事業」を通して～

- 10：20～10：40 自己調整学習方略を取り入れた大学生へのフィットネス教育がもたらす体力の変容
- 10：40～11：00 文章力育成のためのナラティブアプローチの試み
- 11：00～11：20 フォロワーシップ導入によるリーダーシップ教育の変化 ―X 大学での実践における教員の行動変化から―
- 11：20～11：40 大学通信教育における学修支援の類型と機能に関する考察
- 11：40～12：00 総合討論

私が大学通信教育学会にも所属していることから、小田原短期大学の山鹿氏、星槎大学の小塚氏らによる「大学通信教育における学修支援の類型と機能に関する考察」の発表に対して強く興味を持った。大学通信教育における学修支援の実態を類型と機能として整理分類した研究であった。また、関西大学の三浦氏による「文章力育成のためのナラティブアプローチの試み」の発表は、低学年向けの共通科目を運営する上で一つの手法として参考になった。

7. 自由研究発表Ⅱ：部会13 大学論・大学運営(2)

- 13：00～13：20 なぜ私立大学は大学院を設置・維持するのか
- 13：20～13：40 大学経営における内部組織のパワーバランスと自律性―私立大学事務局長調査の結果から―
- 13：40～14：00 日米の大学における教育プログラム分類手法の比較研究
- 14：00～14：20 臨時教育審議会とは何だったのか ―第一次答申を中心に考える―
- 14：20～14：40 総合討論

京都大学大学院生の森山氏による「なぜ私立大学は大学院を設置・維持するのか」の発表で私立大学大学院の意義について再考した。大学院設置の変遷と各時期区分における特徴では興味深いデータが示されていた。スチューデントコンサルタントを認定しているNPO法人学生文化創造の鳥居氏の「臨時教育審議会とは何だったのか ―第一次答申を中心に考える―」では、高等教育における歴史的な背景が示され、私が現在関心を持っている教育改革国民会議の議論や提言に繋がる部分があると考えた。

8. 全体をとおして

今回初めて参加した大学教育学会では、私が担当する職務や研究に関する知見が非常に

多く扱われており、大会への参加は非常に有意義なものであった。本大会への参加をとおして、大学教育学会に入会し、2024JACUEスクールに参加することとなり、2024JACUEスクールを受講し修了することができた。このような貴重な機会を提供いただいた教育総合研究所に対して感謝申し上げたい。

2. 第73回東北・北海道地区高等教育研究会

会場校：秋田大学

日 時：2024年9月5日(木)、6日(金)

参加者：岸 浩介

全体テーマ：「デジタル時代の高等教育の変革と挑戦」

2024年9月5日から6日にかけて秋田大学（秋田市）において、「デジタル時代の高等教育の変革と挑戦」を全体テーマとした「第73回東北・北海道地区高等教育研究会」（＝以下、「研究会」）が開催された。研究会において、筆者は、総会Ⅰならびに全体会Ⅰ、第1分科会、全体会Ⅱに参加した。以下では、全体会Ⅰ、第1分科会、全体会Ⅱの内容について報告する。

全体会Ⅰでは、京都大学大学院教育学研究科准教授 田口真奈先生による基調講演「デジタル時代の高等教育」が行われた。講演においては、文部科学省による生涯学習、グローバル化、単位互換推進政策から始まり、コロナ禍を経てオンライン教育が必要に迫られて浸透してきたという、現在のデジタル時代の教育に至った経緯がまず紹介された。その後、オンライン授業などをオープンリソースとして活用するためのプラットフォームとして、MOOC（Massive Open Online Course）やSPOC（Small Private Online Course）などの紹介があり、コロナ禍による急ごしらえのオンライン授業であっても学生の満足度は全体的には低くなく、それが一定程度浸透した現在の状況に至った過程が説明された。また、その浸透により、今後もオンデマンド型教材の活用が進むことが予測されるものの、オンデマンド型教材はあくまでも「教材」であり、対面授業と同様に教員の手腕が問われることに変わりはないとのコメントがあった。また、学生への「学び方」の教育と「学ぶ意欲」の涵養の重要性と、このような状況だからこそ、対面授業や通学制学校の価値を高めて行くことの重要性が指摘された。

分科会では、「第1分科会」（テーマ：「デジタル時代の教育技術と教育内容の革新と課

題」)に出席した。田中孝平先生(北海道大学)による第1発表(タイトル:「生成AIをめぐる高大接続上の論点—高校教育における生成AIの利活用の実態から考える—」)では、高校と大学での生成AIの利用実態の分析が提示されるとともに、生成AIをめぐる高大接続の在り方が議論された。山口好和先生(北海道教育大学函館校)による第2発表(タイトル:「「デジタル学習環境」に苦手意識をもつ学生の〈できること・できないこと〉—資料・情報の検索と編集活動の観察を通じて—」)では、「デジタル学習環境」において、学生が苦手意識を持たずによくできる活動(ドキュメンタリー番組視聴とコメント作成など)と、苦手意識を持ちあまりよくできない活動(付属図書館での新聞閲覧など)があることが指摘され、苦手意識を持つ学生に対する指導事例が紹介された。松河秀哉先生(東北大学)による第3発表(タイトル:「ループリックと組み合わせた生成AIの活用—初年次教育におけるライティング支援を例に—」)では、ループリックを利用したライティング評価と改善指摘を生成AIに行わせるシステム(「レポートアドバイザー」)の紹介があった。石川貴彦先生(名寄市立大学)による第4発表(タイトル:「対面授業をMicrosoft Teamsで実施することによる学習環境の利便性の向上」)では、対面授業に戻りつつある現在においても、オンライン授業への強制転換で培った資産を活かす方法として、対面授業においてMicrosoft社のTeamsを利用した授業実践例が紹介された。小野祥康先生・三浦寛子先生(北海道科学大学)による第5発表(タイトル:「コロナ禍とその前後における学習支援室の取組—オンラインと対面での学生の取組の差異に着目して—」)では、リメディアル教育の一環として北海道科学大学で開設されている「英語学習支援室」での取り組みが紹介された。筆者が兼任している東北学院大学外国語教育センターでも、授業時間外学習支援事業の一つとして「えいごりらうんじ」という取り組みがあり、その運営の参考になる情報が得られた。

研究会2日目である9月6日(金)は、全体会Ⅱに出席した。まず、及川沙耶佳先生(秋田大学)による事例報告(タイトル:「デジタルを用いた医療者教育」)があった。非常勤講師として他大学で医療系学部の授業を担当することはこれまでであったものの、本学には医療系学部は無いため、筆者の授業運営に直接かかわる内容ではなかったが、デジタル教育のデメリットだけではなくそれを利活用する視点を持ち続けることが重要であることを認識した。その後、分科会報告として1日目の各分科会で展開された議論の紹介と総括、質疑応答がなされた。

東北学院大学も、他大学と同様、コロナ禍により強制的にデジタル教育対応を迫られ、現在はそれを一部利用した授業実施体制を構築しており、筆者自身も自分の授業ではオンライン授業での資産を利用し続けている。しかし、全体会Ⅰにおいて田口先生が述べられ

ていた、この状況だからこそ対面授業の価値を高めなければならないという点を踏まえると、そのような資産を活用して省エネを図ることだけで留まるべきではないことを実感した。

3. 大学教育学会 2024年度課題研究集会

会場校：新潟大学 五十嵐キャンパス

日 時：2024年11月16日（土）、17日（日）

参加者：遠海 友紀

統一テーマ：「学習者中心の大学マネジメント」

大会プログラム

第1日 午前：ポスターセッション

午後：開会行事

基調講演

開催校シンポジウム

情報交換会

第2日 午前：課題研究シンポジウムⅠ、Ⅱ

午後：課題研究シンポジウムⅢ、Ⅳ

閉会行事

参加したセッションの内容と所感

1. ポスターセッション

ポスターセッションでは31件の発表が行われ（うち1件はキャンセル）、その中で「高大接続を意識したライティング教育の検討－論理国語の教科書分析から－」（嶋田みのり・遠海友紀）に連名で関わった。初年次ライティング授業の担当者として所感や、教科書作成側の視点からの意見など、貴重なコメントを頂くことができた。また、この研究を今後どのように進め、その成果を教育実践にどう活かしていくかについても、大きなヒントを得ることができた。

連名の発表以外にも、「初年次」「学習支援」といったキーワードをテーマにした複数の発表を聞いた。その中でも特に、「韓国の地域大学振興と大学合併－2023年のグローバル

大学30政策を中心に」(塚原先生・濱名先生)の発表は、現在取り組んでいる海外事例調査や日本の大学の今後を考える上で非常に参考になる内容だった。

2. 基調講演「文理融合ではなく文理複眼を：人文社会科学系の学びの再興のために」

講師：吉見俊哉氏（東京大学名誉教授・國學院大學観光まちづくり学部教授）

長期的な視点で社会を見れば、その時々で重視される「価値」は必ず変化する。このような価値を理解し、変化を先導するための知識として、文系の知識が重要である。「文系は役に立たない」という考え方を批判し、文系・理系を分けて考えるのではなく、未来を長い目で見据えたときに「当たり前」を問い直し、長期的な歴史的展望の中で新たな価値を見出す文理複眼的な力を持つ学生を育成すべきだ、という吉見先生の主張は、今後の大学教育のあり方を考える上で極めて重要な視点だと感じた。この考え方は、教育に携わる者として意識したい。

3. 開催校シンポジウム「分野横断教育とその教学マネジメント」

シンポジスト：松下 佳代 氏（京都大学大学院教育学研究科教授）

羽倉 尚人 氏（東京都市大学理工学部教授）

渡邊 智也 氏（ベネッセ教育総合研究所）

福島 治 氏（新潟大学副学長・人文学部教授）

浅賀 岳彦 氏（新潟大学副学長・理学部教授）

モデレーター：斎藤 有吾 氏（新潟大学教育基盤機構准教授）

全体司会：上畠 洋佑 氏（新潟大学教育基盤機構准教授）

2018年に取りまとめられた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」などを踏まえ、「文理横断・文理融合」や「総合知」をキーワードに、大学での具体的な取り組みとして東京都市大学の「SD PBL」や新潟大学の「NICEプログラム」が紹介された。また、科目横断型の学習成果をどのように評価するかという観点から、初等中等教育の事例についても触れられた。

特に印象に残ったのは、東京都市大学の取り組みである。このプログラムは、4年間を通じて学生の成長を支える構造になっているだけでなく、学部混合でプログラムを実施することで、専門外の視点を学ぶ機会が提供されている。それにより、学生はこれまで学んだ専門知識を俯瞰的に捉え、体系化する力を養うことができる点が非常に素晴らしいと感じた。

4. 課題研究シンポジウムⅡ

「高等教育における生成AI利用のガイドラインに関する研究」

研究代表者：田中 一孝 氏（桜美林大学）

趣旨説明の後、デジタル人文学の教育と生成AIに関する話題提供が行われ、その後、3つの報告、指定討論が続いた。それぞれの報告内容は、「専門分野ごとの生成AIの活用事例としての法学における取り組み」、「生成AIの活用を前提とした学習評価のあり方」、「高大接続の視点から見た生成AIの影響について」となっていた。

これらの報告はいずれも非常に学びの多いものだったが、特に印象的だったのは、話題提供で紹介された「デジタル人文学」という分野の紹介だった。デジタル人文学は、情報学と人文学を統合した学際的な領域で、デジタル技術を活用することで人文学における新しい研究手法を考案し、新たな知見を得ることを目指している。生成AIをはじめとする技術を導入することで、これまで多大な専門知識や労力を要していた作業を自動化することが可能になり、今後の研究に大きな影響を与えるとされている。こうした状況の中、技術の仕組みを理解するだけでなく、人工知能は人間によって作られたものであり、多様な価値観や癖を内包していることを認識することの重要性や、良質なデータを提供することの必要性が強調されるなど、非常に興味深い内容だった。

指定討論では、「生成AIが教育にどのような変化をもたらすのか」、「デジタルディバイドにどう立ち向かうのか」という観点で議論が進められた。教育への影響として、生成AIが人間をアシストする点は評価できる一方で、誤った情報やフェイクニュースに触れる機会が増えることが懸念点として挙げられた。こうした課題に対応するためには、複眼的視点を持つことやクリティカルシンキングを身につけることが重要だとされ、教育目標の再設定や評価のパラダイムシフトが必要になると指摘された。また、大学の規模や状況によって利用可能な技術に格差が生じないようにするために、どのような取り組みが求められるのかについても検討が必要だという意見が出された。

5. 課題研究シンポジウムⅢ

「学士課程における卒業研究教育の目標・評価・方法」

研究代表者：西野 毅朗 氏（京都橘大学）

4つの報告とディスカッションが行われた。初めに、2年間にわたる取り組み全体の報告が行われ、その後、量的データ（全国調査）の分析、質的データ（インタビュー）の分

析、フィールドデータの分析と、それぞれ異なる種類のデータ分析の結果が報告された。

どの報告も非常に学びの多い内容だったが、特にインタビューデータの分析に興味を持った。この調査では、ディプロマ・ポリシー（DP）と卒業研究のつながり、卒論の最低水準の捉え方、評価基準の作成などに焦点を当てて分析が行われており、評価に関する視点から担当教員の取り組みや工夫を知ることができた。卒業研究の指導や評価には、各教員が様々な工夫を凝らしているものの、その観点や取り組みは多様であり、一律に統一したり、単純に他大学の手法を真似たりするだけでは十分でないことが提示されていた。また、各大学が設定するDPや学生の状況に応じた細やかな対応が求められる一方、教育の質を保証する観点からも、押さえるべき基準や方法を検討する重要性を改めて認識する機会となった。

ディスカッションでは、「何のための卒業研究なのか」という観点からDPを見直す必要性が発生する可能性があるのではないか、という議論が展開された。また、初年次ライティング教育で学んだ内容を4年生になる頃には忘れてしまう学生が多いことが指摘され、これにより卒業研究を指導する担当教員の負担が大きくなるという課題が挙げられた。この課題への対応として、2年生や3年生の段階でも継続的に書く経験を積む機会をどう作るか、さらにそれを支える組織的な体制を整える必要性が議論された。初年次ライティング授業の担当者として、この意見には深く共感する一方で、4年間を通して学生が継続的に書く機会を得られる仕組みをどう構築すべきか、改めて考えさせられる内容だった。

4. 大学コンソーシアム京都第30回FD・SDフォーラム

会場校：龍谷大学（対面開催）

日 時：2025年3月1日（土）、2日（日）

参加者：長島 康雄

メインテーマ：「FD×SDで学生の学びと幸せを支える」

*開催後に活動報告予定

教育総合研究所購入図書一覧（2006年以降）

教育総合研究所の所蔵図書の閲覧を希望される教職員の皆様は、当研究所までお申し出ください。所定の手続きを踏まえて貸出をしております。

2024年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・リベラルアーツと民主主義、石井洋二郎 編ほか、水声社、2024年
- ・大学と教育の未来、内田樹、武久出版、2024年
- ・論文の書きかた、佐藤健二、筑摩書房、2024年
- ・魂の教育 よい本は時を超えて人を動かす、森本あんり、岩波書店、2024年
- ・ルポ学校がつまらない 公立小学校の崩壊、小林美希、岩波書店、2024年
- ・新自由主義教育の40年「生き方コントロールの未来形」、児美川孝一郎、青土社、2024年
- ・18歳からのトータルライフガイド 未来への第一歩、平井愛、中西のりこ、三修社、2025年
- ・「平等について、いま話したいこと」、トマ・ピケティ、マイケル・サンデル、早川書房、2025年

2023年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・文・理を融合してリーダーを育てる「STEM教育」、川村一彦、幻冬舎、2022年
- ・図解で学ぶクリティカル・シンキング・ツール・モデルを活かして、椎名紀久子、後藤希望、森川セーラ、南塚信吾、アルファベータブックス、2022年
- ・大学の歩き方・学問のはじめ方—新しい「自分」の可能性を見つけよう、大島寿美子、柿原久仁佳、金子大輔、平野恵子、松浦年男、ミネルヴァ書房、2023年
- ・組織衰退のメカニズム歴史活用がもたらす罣、尾健治、白桃書房、2022年
- ・諸外国の高等教育（文部科学省「教育調査」シリーズ第158集）、文部科学省、明石書店、2021年

2022年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・教養と大学スタッフ 東信堂ブックレット、絹川正吉、東信堂、2022年

2021年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・カリキュラム研究事典、クレイグ・クライデル、ミネルヴァ書房、2021年
- ・東京大学のアクティブラーニング、東京大学教養教育高度化機構、東京大学出版会、2021年

- ・主体的学び7号 教えることをやめられますか、主体的学び研究所、東信堂、2021年
- ・学修成果の可視化と内部質保証、山田礼子・木村拓也、玉川大学出版部、2021年
- ・大学のIRと学習・教育改革の諸相 変わりゆく大学の経験から学ぶ、鳥居朋子、玉川大学出版部、2021年
- ・内部質保証と外部質保証 社会に開かれた大学教育をめざして、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構、ぎょうせい、2020年
- ・イギリス大学制度成立史、山崎智子、東信堂、2021年

2020年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・全国学力テストはなぜ失敗したのか、川口俊明、岩波書店、2020年
- ・大学改革の処方箋、篠田道夫、東信堂、2020年
- ・変動する大学入試、伊藤実歩子、大修館書店、2020年
- ・東大という思想、吉見俊哉・森本祥子、東京大学出版会、2020年
- ・「社会人教授」の大学論、宮武久佳、青土社、2020年
- ・日本型公教育の再検討、大桃敏行、背戸ひろし、岩波書店、2020年
- ・大学での学び、田中俊也、関西大学出版部、2020年

2019年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・主体的学び6号 いま、なぜ教養教育が必要なのかを問う、主体的学び研究所、東信堂、2019年
- ・現代の教育改革、徳永保、ミネルヴァ書房、2019年
- ・大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか、山村滋・濱中淳子・立脇洋介、ミネルヴァ書房、2019年
- ・東京大学駒場スタイル、東京大学教養学部、東京大学出版会、2019年

2018年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・未来の学校、トニー ワグナー、玉川大学出版会
- ・国語ゼミ、野矢茂樹、山川出版社
- ・親が知っておきたい教育の疑問、石井としろう、集英社
- ・持続的な学びのための大学授業の理論と実践、安藤輝次、関西大学出版部
- ・〈まちなか〉から始まる地方創生、福川裕一・城所哲夫、岩波書店
- ・ディープ・アクティブラーニング、松下佳代ほか、劉草社 青土社

- ・大学での学び方、成城大学共通教育研究センター、剋草社
- ・ライト・アクティブラーニングのすすめ、橋本勝、ナカニシヤ
- ・教養教育の再生、林哲介、ナカニシヤ
- ・高大接続の本質、溝上慎一、学事出版
- ・なぜオックスフォードが世界一の大学なのか、コリン ジョリス、三賢社
- ・変容する社会と教育のゆくえ、稲垣 内田、岩波書店
- ・進化する初年次教育、初年次教育学会編、世界思想社

2017年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・主体的学び別冊 特集高大接続改革、主体的学び研究所 2017年
- ・戦後日本教育方法論史（上）、田中耕治、ミネルヴァ書房 2017年
- ・戦後日本教育方法論史（下）、田中耕治、ミネルヴァ書房 2017年
- ・授業の見方、澤井陽介、東洋館出版社、2017年
- ・学習者中心の教育、メルソン・ワイマー、勁草書房 2017年
- ・私立大学はなぜ危ういのか、渡辺孝、青土社、2017年
- ・大学と学問 リーディングス日本の高等教育5、橋本鉦市、玉川大学出版
- ・大学と学問 リーディングス日本の高等教育6、橋本鉦市、玉川大学出版

2016年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・たったひとつを変えるだけ、ダン・ロスステイン、ルース・サントナ、新評論、2016年
- ・大学入試改革、読売新聞教育部、中央公論社、2016年
- ・なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか、山本崇雄、日経BP社、2016年
- ・ファシリテーションで大学が変わる、中野民夫、ナカニシヤ出版、2016年
- ・大学のアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2016年
- ・アクティブラーニングを創るまなびのコミュニティ、池田輝政・松本浩司、ナカニシヤ出版、2016年
- ・「主体的学び」につなげる評価と学習方法、J.ウイルソン、東信堂、2016年
- ・アクティブラーニングを支えるカウンセリング24の基本スキル、小林昭文、ほんの森出版、2016年
- ・アクティブラーニング 大学の教授法3、中井俊樹、玉川大学出版部、2015年
- ・主体的学び4号 アクティブラーニングはこれでいいのか 主体的学び研究所、東信堂、2016年

- ・アクティブラーニングのデザイン 永田敬・林一雅、東京大学出版会 2016年
- ・学力の経済学、中室牧子、ディスカバー21、2016年

2015年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・高等教育の社会学、パトリシア・J・ガンポート、玉川大学出版部、2015年
- ・大学教育の変貌を考える、三宅義和、ミネルヴァ書房、2014年
- ・大学生の学習ダイナミクス、河井亨、東信堂、2014年
- ・大学は社会の希望か、江原武一、東信堂、2015年
- ・大学改革を問い直す、天野郁夫、慶応義塾大学出版会、2013年
- ・アウトカムの基づく大学教育の質保証、深堀聡子、東信堂、2015年
- ・大学のI R Q & A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・大学版I Rの導入と活用の実際、佛淵孝夫、実業之日本社、2015年
- ・「深い学び」につながるアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2013年
- ・ラベルワークで進める参画型教育、林義樹、ナカニシヤ出版、2015年
- ・未来の大学教員を育てる、田口真奈、勁草書房、2013年
- ・協働で学ぶクリティカル・リーディング、舘岡洋子、ひつじ書房、2015年
- ・立命館大学（I R方式・センター試験併用方式）、数学社編集部、数学社、2015年
- ・アカデミック・アドバイジング、清水栄子、東信堂、2015年
- ・主体的学びにつなげる評価と学習方法、スー・フォスタティ・ヤング、東信堂、2013年
- ・主体的学び創刊号パラダイム転換、主体的学び研究所、東信堂、2014年
- ・主体的学び2号反転授業がすべてを解決するのか、主体的学び研究所、東信堂、2014年
- ・主体的学び3号アクティブラーニングとポートフォリオ、主体的学び研究所、東信堂、2015年
- ・思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント、関東地区FD連絡協議会、ミネルヴァ書房、2013年

2014年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・シリーズ大学7巻対話の向こうの大学像、広田照幸、岩波書店、2014年
- ・高等教育研究 第1集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1998年
- ・高等教育研究 第2集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1999年
- ・高等教育研究 第3集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2000年
- ・高等教育研究 第4集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2001年

- ・高等教育研究 第9集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2006年
- ・高等教育研究 第10集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2007年
- ・高等教育研究 第11集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2008年
- ・高等教育研究 第13集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2010年
- ・高等教育研究 第14集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2011年
- ・高等教育研究 第16集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2013年
- ・高等教育研究 第17集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2014年
- ・現代教育制度改革への提言 上、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・現代教育制度改革への提言 下、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・ディープアクティブラーニング、松下佳代、勁草書房、2015年
- ・アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換、溝上慎一、東信堂、2014年
- ・教育方法原論、吉田卓司、三学出版、2013年
- ・学びの質を保証するアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2014年
- ・学生の理解を重視する大学授業、ノエル・エントウイスル、玉川大学出版部、2010年
- ・アメリカ研究大学の大学院、阿曾沼明裕、名古屋大学出版会、2014年

2013年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学入試の終焉、佐々木隆正、北海道大学出版会、2012年
- ・大学の教務Q & A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・シリーズ大学1 巻グローバルゼーション・社会変動と大学、吉田文、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学2 巻大衆化する大学、濱中淳子、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学3 巻大学とコスト、上山隆大、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学4 巻研究する大学、小林傳司、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学5 巻教育する大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学6 巻組織としての大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・大学生のための「社会常識」講座、松野弘、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学生活を楽しむ護身術、宇田光、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学1年生からのコミュニケーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生からのプレゼンテーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2012年
- ・新編大学学びのことはじめ、佐藤智明、ナカニシヤ出版、2011年
- ・理工系学生のための大学入門、金田徹、ナカニシヤ出版、2012年
- ・プロフェッショナル・ディベロップメント、安藤厚、北海道大学出版会、2012年

- ・航行をはじめた専門職大学院、吉田文、東信堂、2010年
- ・日本とドイツの教師教育改革、渡邊満、東信堂、2010年
- ・教員養成学の誕生、遠藤孝夫、東信堂、2007年
- ・教育機会均等への挑戦、小林雅之、東信堂、2012年
- ・アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策、犬塚典子、東信堂、2006年
- ・現代アメリカにおける学力形成論の展開、石井英真、東信堂、2011年
- ・アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング、唐木清志、東信堂、2010年
- ・ソーシャルキャピタルと生涯学習、ジョン・フィールド、東信堂、2011年
- ・ノンフォーマル教育の可能性、丸山英樹、新評論、2013年
- ・日本の社会教育・生涯学習、小林文人、大学教育出版、2013年

2012年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・比較教育学事典、日本比較教育学会編、東信堂、2012年
- ・大学のカリキュラムマネジメントー理論と実際ー、中留武昭著、東信堂、2012年
- ・学生の学力と高等教育の質保証＜1＞、山内乾史緒、学文社、2012年
- ・教育学年報〈9〉大学改革（教育学年報9）、藤田英典（編集）、片桐芳雄（編集）、黒崎 勲（編集）、佐藤 学（編集）、世織書房2012年
- ・高等教育論入門、早田幸政（編集）、青野 透（編集）、諸星 裕（編集）、ミネルヴァ書房、2010年
- ・ボランティア教育の新地平、桜井 政成（編さん）、津止 正敏（編さん）著、ミネルヴァ書房 2009年
- ・大学生のためのリサーチリテラシー入門、山田剛史、林創著、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学における学習支援への挑戦、日本リメディアル教育学会監修、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学と変える大学教育、清水亮、橋本勝、松本美奈編、ナカニシヤ出版、2009年
- ・学生主体型授業の冒険、小田隆治、杉原真晃編著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学におけるキャリア教育の実践、小樽商科大学地域研究会編 ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生のためのデザインングキャリア、渡辺三枝子、五十嵐浩也、田中勝男、高野澤勝美著、ナカニシヤ出版、2011年
- ・大学生のキャリア発達、宮下一博著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・協同学習の技法、E.F.Barkley/K.P.Cross/C.H.Major著、ナカニシヤ出版、2009年
- ・実践！アカデミックディベート、安藤香織、田所真生子編、ナカニシヤ出版、2002年
- ・生成する大学教育学、高等教育研究開発推進センター編、ナカニシヤ出版、2012年

- ・学生・職員と創る大学教育、清水亮、橋本勝編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生の納得感を高める大学授業、山地弘起、橋本健夫編著、ナカニシヤ出版、2012年
- ・グローバルキャリア教育、友松篤信編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学教育の臨床的研究 田中毎実著、東信堂、2011年
- ・スタンフォード 21世紀を創る大学、ホーン川嶋瑤子著、東信堂、2012年
- ・学士課程教育の質保証へむけて、山田礼子著、東信堂、2012年
- ・大学自らの総合力、寺崎昌男著、東信堂、2010年

2011年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・批判的思考力を育む、楠見 孝、子安増生、道田泰司、有斐閣、2011年
- ・高等教育室保証の国際比較、羽田貴史、杉本和弘、米澤彰純、東信堂、2009年
- ・私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂 2010年
- ・学習経験をつくる大学授業法、L. デイー・フィンク、玉川大学出版部、2011年
- ・変貌する世界の大学教授職、有本 章、玉川大学出版部、2011年
- ・学級経営読本、小島 宏、玉川大学出版部、2012年
- ・転換期日本の大学改革、江原武一、東信堂、2010年
- ・成績評価の厳格化と学習支援システム 半田智久、地域科学研究会 2011年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑫高等教育 塚原修一、広田照幸、日本図書センター、2009年

2010年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学の反省、猪木武徳、N T T出版、2009年
- ・2011年版大学ランキング、週刊朝日進学MOOK、2010年
- ・初年次教育でなぜ学生が成長するのか、河合塾、東信堂、2010年
- ・学力問題のウソ、小笠原喜康、P H P研究所、2008年
- ・大学とキャンパスライフ 武内清 上智大学出版 2005年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―第1巻 学力問題・ゆとり教育、中村高康編、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―第3巻 子育て・しつけ、橋本鉦市編、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―第5巻 大学と学問、阿曾沼明裕、玉川大学出版部、2010年

- ・リーディングス 日本の教育と社会―第6巻 歴史教科書問題、村澤昌崇編、玉川大学出版部、2010年
- ・大学と社会、安原義仁、放送大学教育振興会、2008年
- ・高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂、2010年
- ・戦後日本産業の大学教育要求、飯吉弘子、東信堂、2008年
- ・大学教育を科学する、山田礼子、東信堂、2009年
- ・大学における書く力考える力、井下千以子、東信堂、2008年
- ・2010年版大学ランキング、朝日新聞出版、2009年
- ・「教育改革」と労働のいま、日本社会臨床学会、現代書館、2008年
- ・国際移動と教育、江原裕美、明石書店、2011年
- ・グローバル化時代の教育の選択、増淵幸男、上智大学出版、2010年
- ・大学の危機、草原克豪、弘文堂、2010年
- ・教育用語辞典、山崎英則編、ミネルヴァ書店、2003年
- ・教育学をひらく 鈴木敏正 青木書店 2009年
- ・「教育」としての職業指導の成立 石岡学 勁草書房 2011年
- ・大学を変える 東海高等教育研究所 大学教育出版 2010年
- ・シティズンシップへの教育 中山あおい 新曜社 2010年
- ・学校の挑戦 佐藤学 小学館 2006年
- ・教師花伝書 佐藤学 小学館 2009年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―③子育て・しつけ 広田照幸 日本図書センター 2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑤愛国心と教育 大内裕和 日本図書センター 2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑥歴史教科書問題 三谷博 日本図書センター 2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑦子どもと性 浅井春夫 日本図書センター 2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑧いじめ・不登校 伊藤茂樹 日本図書センター 2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑨非行・少年犯罪 伊藤茂樹 日本図書センター 2007年

- ・リーディングス 日本の教育と社会―⑩子どもとニューメディア 北田暁大・大多和直樹
日本図書センター、2007年

2009年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第一巻、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第二巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第三巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・論文を書くためのWord利用法、くろしお出版、2009年
- ・知のナビゲーター、くろしお出版、2007年
- ・知へのステップ 改訂版、くろしお出版、2006年
- ・知のワークブック、くろしお出版、2006年
- ・落下傘学長奮闘記 黒木登志夫、中央公論新社、2009年
- ・最新教育データブック 第12版、清水一彦、時事通信出版局、2008年
- ・アカデミック・ポートフォリオ、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2009年
- ・基礎からわかるポートフォリオのつくり方・すすめ方、佐藤真、東洋館出版社、2002年
- ・国民国家システムの変容、吉川宏、学術出版会、2008年
- ・アメリカの大学開放、五島敦子、学術出版会、2008年
- ・近代日本教育会史研究、梶山雅史、学術出版会、2007年
- ・臨時教育審議会、渡部蕨、学術出版会、2006年
- ・大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究、峯石緑、溪水社、2002年
- ・大学の實力、読売新聞社、中央公論新社、2009年
- ・大学を語る 22人の学長、玉川大学出版部、1997年
- ・大学個性化の戦略、玉川大学出版部、2000年
- ・大学教師の自己改善、玉川大学出版部、2000年
- ・大学進学の世界、小林雅之、東京大学出版会、2009年
- ・21世紀の教育を拓く、山田耕路、西日本新聞社、2009年
- ・高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・教育とエビデンス、経済協力開発機構、明石書店、2009年
- ・教育研究ハンドブック、立田慶裕。世界思想社、2008年
- ・キャリア教育概説、日本キャリア教育学会、東洋館出版社、2008年
- ・変貌する日本の大学教授職、有本章、玉川大学出版部、2008年

- ・統計学から計量経済学入門、藤山英樹、昭和堂、2007年
- ・批判的リテラシーの教育、竹川慎哉、明石書店、2010年
- ・転換期を読み解く、潮木守一、東信堂、2009年
- ・リーディングス 日本の教育と社会 第1巻、学力問題・ゆとり教育、広田照幸、日本図書センター、2009年
- ・リーディングス 日本の教育と社会 第2巻、学歴社会・受験戦争、広田照幸、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス 日本の教育と社会 第4巻、教育基本法、広田照幸、日本図書センター、2006年
- ・リーディングス 日本の教育と社会 第12巻、高等教育、広田照幸、日本図書センター、2009年

2008年度購入図書一覧（和書・順不同）

※学力低下は錯覚である、神永正博、森北出版、2008年（第9号に書評掲載）

- ・国立大学・法人化の行方、天野郁夫、東信堂、2008年
- ・フンボルト理念の終焉？—現代大学の新理念、潮木守一、東信堂、2008年
- ・教育人間論のルーマン、田中智志・山名淳、勁草書房、2004年
- ・他者の喪失から感受へ、田中智志、勁草書房、2002年
- ・大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編、橋本修、三省堂、2008年
- ・自分 私を拓く、水原克敏、東北大出版、2003年
- ・三高の見果てぬ夢—中等・高等教育成立過程と折田彦市、巖 平、思文閣出版、2008年
- ・札幌農学校と英語教育、外山敏雄、思文閣出版、1992年
- ・高等教育の経済分析と政策、矢野眞和、玉川大学出版部、1996年
- ・大学改革の海図、矢野眞和、玉川大学出版部、2005年
- ・教育社会の設計（UP選書）、矢野眞和、東京大学出版会、2001年
- ・入試改革の社会学、中澤渉、東洋館出版社、2007年
- ・大学とキャンパスライフ、武内清、上智大学出版、2008年
- ・学校システム論、竹内洋、放送大学教育振興会、2007年
- ・これからの教養教育—「カタ」の効用（未来を拓く人文・社会科学）、葛西康德、鈴木佳秀、東信堂、2008年
- ・団塊世代の同時代史（歴史文化ライブラリー）、天沼香、吉川弘文館、2007年
- ・戦後教育のなかの〈国民〉—乱反射するナショナリズム、小国喜弘、吉川弘文館、2007年

- ・ 知と学びのヨーロッパ史 ―人文学・人文主義の歴史的展開（MINERVA西洋史ライブラリー）、南川高志、吉川弘文館、2007年
- ・ 改めて「大学制度とは何か」を問う、舘 昭、東信堂、2007年
- ・ 原点に立ち返っての大学改革、舘 昭、東信堂、2006年
- ・ 30年後を展望する中規模大学マネジメント・学習支援・連携、市川太一、東信堂、2006年
- ・ ティーチング・ポートフォリオ―授業改善の秘訣、土持ゲーリー法一、東信堂、2007年
- ・ 世界標準の読解力―OECD・PISAメソッドに学べー、岡部憲治、白日社、2007年
- ・ 心理統計学の基礎―統合的理解のために、南風原朝和、有斐閣アルマSPECIALIZED、2002年
- ・ 実践的研究のすすめ―人間科学のリアリティ、小泉潤二・志水宏吉、有斐閣、2007年
- ・ 大学の学び・入門 大学での勉強は役に立つ！―、溝上慎一、有斐閣アルマINTEREST、2006年
- ・ 大学生の就職とキャリア―普通」の就活・個別の支援、小杉礼子、勁草書房、2007年
- ・ 大学生の職業意識とキャリア教育、谷内篤博、勁草書房、2005年
- ・ 働く意味とキャリア形成、谷内篤博、勁草書房、2007年
- ・ キャリア教育と就業支援、小杉礼子・堀有喜衣、勁草書房、2006年
- ・ 教育史研究の最前線、教育学史会編、日本図書センター、2007年
- ・ 資料で読む前後日本と愛国心〈第1巻〉復興と模索の時代 一九四五～一九六〇、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・ 大学ランキング、「週刊朝日」進学MOOK、2008年
- ・ 日本の大学教授市場（高等教育シリーズ 142）、山野井敦徳、玉川大学出版部、2007年
- ・ ベストプロフェッサー（高等教育シリーズ）、ケン・ベイン、玉川大学出版部、2008年
- ・ 大学の英語教育を変える―コミュニケーション力向上への実践指針、山地弘起、玉川大学出版部、2008年
- ・ アメリカの学生獲得戦略（高等教育シリーズ）、山田礼子、玉川大学出版部、2008年
- ・ 大学教育を変える教育業績記録、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2007年

2007年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・ 大学を解体せよ、中野憲志、現代書館、2007年
- ・ 大学図鑑！2008、オバタカズユキ、ダイヤモンド社、2007年
- ・ 学生諸君！ 夏目漱石他、光文社、2006年
- ・ 大学教育のエクセレンスとガバナンス、地域科学研究会、地域科学研究会、2006年

- ・教育学事始め、氏家重信、北大路書房、2007年
- ・学生による教育再生会議、東京学生教育フォーラム、平凡社新書、2007年
- ・大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2007年
- ・大学のイノベーション、坂本和一、東信堂、2007年
- ・あたらしい教養教育をめざして、大学教育学会、東信堂、2004年
- ・学力を育てる、志水宏吉、岩波書店、2006年
- ・大学ランキング、2008年版、週刊朝日進学 MOOK、朝日新聞社、2007年
- ・大学の教育力、金子元久、筑摩書房、2007年
- ・教育デザイン入門、実践的ソフトウェア教育コンソーシアム、オーム社、2007年
- ・大学改革その先を読む、寺崎昌男、東信堂、2007年
- ・大学卒業制度の崩壊、藤田整、文芸社、2007年
- ・大学教育の思想、絹川正吉、東信堂、2006年
- ・大学における初年次少人数教育と「学びの転換」、東北大学高等教育開発推進センター、東北大学出版会、2007年
- ・A O型入学選抜の多様な進化(上)、地域科学研究会、地域科学研究会、2000年
- ・A O型入学選抜の多様な進化(下)、地域科学研究会、地域科学研究会、2001年

2006年度購入図書一覧（和書・順不同）

※恐るべきお子さま大学生たち、ピーター・サックス、草思社、2000年（第6集に内容紹介掲載）

- ・息子・娘を成長させる大学、読売新聞社、読売新聞社、2006年
- ・潰れる大学・伸びる大学辛口採点 2007年版、梅津和郎、エール出版社、2005年
- ・大学ランキング 2007年版、朝日新聞社、朝日新聞社、2006年
- ・危ない大学・消える大学 2007年版、島野清志、エール出版社、2006年
- ・大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2006年
- ・大学生活ナビ、玉川大学コア・F Y E教育センター編、玉川大学出版部、2006年
- ・大学論、エイブラハム・フレックスナー、玉川大学出版部、2005年
- ・プロフェSSIONAL化と大学、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2004年
- ・ヨーロッパの高等教育改革、ウーリッヒ・タイヒラー、玉川大学出版部、2006年
- ・アジアの高等教育改革、フィリップ・G・アルトバック&馬越徹編、玉川大学出版部 2006年
- ・戦後日本の高等教育改革政策、土持 ゲーリー法一、玉川大学出版部、2006年

- ・私学高等教育の潮流、Ph.G・アルトバック編、玉川大学出版部、2004年
- ・高等教育 改革の10年、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2003年
- ・大学教育「教育評価ハンドブック、ラリー・キーン&マイケル・D・ワガナー、玉川大学出版部、2003年
- ・知識基盤社会と大学の挑戦、佐々木毅、東京大学出版会、2006年
- ・オランダの個別教育はなぜ成功したのか、リヒテル直子、平凡社、2006年
- ・じょうずな勉強法、麻柄啓一、北大路書房、2005年
- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・大学基礎講座 改増版、藤田哲也、北大路書房、2006年
- ・"学生"になる！、浦上昌則、北大路書房、2006年
- ・SD（スタッフ・ディベロップメント）が育てる大学経営人材、山本眞一、文葉社、2004年
- ・21世紀の大学職員像、立命館大学、かもがわ出版、2005年
- ・人が学ぶということ、今井むつみ、野島久雄、北樹出版、2003年
- ・研究計画書デザイン、細川英雄、東京図書、2006年
- ・これで書ける！大学院研究計画書攻略法、進研アカデミーグラデュエート大学部編、オクムラ書店、2002年
- ・大学力、有本章、北垣郁雄、ミネルヴァ書房、2006年
- ・大学激動、朝日新聞社、朝日新聞社、2003年
- ・大学事務職員のための高等教育システム論、山本眞一、文葉社、2006年
- ・認知心理学者 新しい学びを語る、森敏昭、北大路書房、2002年
- ・授業を変える、米国学術研究推進会議、北大路書房、2002年
- ・学力低下論争、市川伸一、ちくま新書、2002年
- ・学ぶ意欲の心理学、市川伸一、PHP研究所、2001年
- ・学ぶこと・教えること、鹿毛雅治、金子書房、1997年
- ・授業デザインの最前線、高垣マユミ、北大路書房、2005年
- ・教材設計マニュアル、鈴木克明、北大路書房、2002年
- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・教育力、斎藤孝、岩波新書、2007年

所収和雑誌

・ 大学教育学会誌	1980年～	No.1～ (旧一般教育会誌)
・ 大学資料	1989年～	No.139～
・ 大学と学生	1989年～2011年	No.397～565
・ 内外教育	1989年～	No.4023～
・ 文部科学時報	1989年～2012年	No.1344～1635
・ 教育委員会月報	1989年～	No.465～
・ 教育情報パック	1990年～2007	No.401～806
・ I D E ー現代の高等教育	1991年～	No.276～

所収資料

・ 発達障害白書	1996年～2001年
・ 文部科学白書	1996年～ (旧我が国の文教政策)
・ 学校基本調査報告書	1992年～ (初等中等教育、高等教育)

既刊報告集の主要内容

『教育総合研究所報告集』

第24集 2024年3月

○研究報告

- ・教養教育カリキュラム改訂の経緯とその意義

—東北学院大学における2023年度TGベーシック等の改訂を対象として—

千葉 昭彦

- ・教育基本法第一条「教育の目的」に関する一考察

—その解釈の歴史を踏まえて—

紺野 祐

○調査報告

- ・学都仙台コンソーシアムの成立の経緯と現在の活動状況

千葉 昭彦

○実践報告

- ・生成AI時代の高等教育の必要性

中村 教博

- ・ライティング授業におけるLTDの導入と効果

—読解方略の習得とミーティングによる理解の深まりに着目して—

嶋田みのり

- ・東北学院大学 ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における

2023年度の学生スタッフの活動

遠海 友紀・嶋田みのり

『教育研究所報告集』

第23集 2023年3月

○調査報告

- ・Ecc-DRRの視点からみた東日本大震災後の学校防災・減災

—地震や津波という自然災害から子どもを守るための学校施設・設備—

長島 康雄

- ・大学生のボランティア活動に対する認識(2)

渡邊 圭・千葉 真哉・齋藤 渉

- ・ループリックを用いた成績評価に関する報告

—教養学部「総合研究」の事例—

岸 浩介

○実践報告

- ・英語リメディアル教育におけるスピーチ指導

—写真描写を用いた活動の実践報告—

矢島 真澄美

第22集 2022年3月

○調査報告

- ・大学生のボランティア活動に対する認識 渡邊 圭・千葉 真哉・齋藤 渉

○研究報告

- ・コロナ禍の中の卒業生：2020年度『卒業時意識調査』報告 神林 博史

第21集 2021年3月

○研究報告

- ・コロナ感染症拡大に対する東北学院大学の2020年度前期の
教学上の対応経過の報告 千葉 昭彦
- ・2020年度遠隔授業実施を通して見えたこと 加藤 健二
- ・IR視点からの東北学院大学の遠隔型授業の評価と改善
～学生調査に基づく教育課程の質保証の事例から～ 齋藤 渉

○報告

- ・英語教育センターにおける遠隔授業への対応
渡部 友子・ドンネレ アリーセ・薄井 洋子・矢島 真澄美・阪口 慧

第20集 2020年3月

○研究報告

- ・AO入試再訪：10年の後に 片瀬 一男

○報告

- ・英語新カリキュラム全学化の経過と課題 渡部 友子

第19集 2019年3月

○研究報告

- ・留年卒業生の来歴
—「モラトリアム人間」から「マージナル学生」へ— 片瀬 一男
- ・教養科目におけるmanabaおよびresponの活用 松本 章代・金菱 清

○報告

- ・ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における学習支援の取り組み 嶋田みのり
- ・ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における学生スタッフの活動
—2017年度の取り組みについて— 遠海 友紀

- ・英語新カリキュラム（経済・経営・法・工学部）実施の経過と全学科への課題

渡部 友子

第18集 2018年3月

○研究報告

- ・2017年度新入生の入学時英語力とその規定因 神林 博史
- ・ラーニング・コモンズにおける利用者ガイダンスの実践と評価 嶋田みのり
- ・東北学院大学 学部2年生の授業外学習に関する調査
—ラーニング・コモンズでの学習支援の検討に向けて— 遠海 友紀

○報告

- ・英語カリキュラム（経済・経営・法・工学部）実践初年度の経緯と課題
英語教育センター 渡部 友子・矢島真澄美・薄井 洋子

第17集 2017年3月

○研究報告

- ・COC+事業における地域教育科目の設計と運用 松崎 光弘
- ・CAP制は学生の履修行動をどのように変えたか
—CAP制導入の「意図せざる結果」— 片瀬 一男

○報告

- ・英語教育センター2016年度の活動 渡部 友子

第16集 2016年3月

○研究報告

- ・本学における不本意入学者の特徴（2）
東北学院大学新入生意識調査の分析 2011-2015 神林 博史
- ・東北学院大学における教育の現状と課題—2009-14年度卒業時調査の分析— 片瀬 一男
- ・ディープ・アクティブラーニングにおける複雑性の活用 松崎 光弘

○報告

- ・英語教育センター発足までの経緯と初年度の活動 渡部 友子

第15集 2015年3月

○研究報告

- ・ 本学における成績評価の現状—教員アンケート調査結果の概要— 斎藤 誠
- ・ 2014年度新入生意識調査から見た新入生の特徴と入学後成績の関係 神林 博史
- ・ 大学生活の評価(2)—「2013年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・ “TGベーシック”の現状と課題—カリキュラム導入からの2年を振り返って— 千葉 昭彦
- ・ 理科教育を考える 佐藤 篤

第14集 2014年3月

○研究報告

- ・ 大学生活の評価—「2012年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・ 本学における不本意入学者の特徴：
東北学院大学新入生意識調査の分析 神林 博史
- ・ 本学の共通英語教育のあり方を考える
—英語教育の最近の動向を踏まえて— 渡部 友子

第13集 2013年3月

○研究報告

- ・ 現実感をもった英語教育を：英語教育改革私案 渡部 友子
- ・ 「大学組織の意思決定における職員参加」調査報告 亀谷 純

○報告

- ・ 今回の本学教養教育改革について—その背景、意義と今後の課題— 斎藤 誠

第12集 2012年3月

○研究報告

- ・ アカデミックスキル・ルーブリックの開発—初年次教育におけるスキル評価の試み—
葛西 耕市・稲垣 忠

○報告

- ・ 「学生生活実態調査」(2006年・2010年)にみられる本学学生の特徴
—私大連全体との比較の中で— 斎藤 誠

○書評

- ・今日の「大学改革」の可能性 ―潮木守一『フンボルト理念の終焉？現代大学の新次元』を読んで― 千葉 昭彦

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第3回

- ・教養教育雑感 ―自然科学教員が見た大学教育― 高橋 光一

第11集 2011年3月

○研究報告

- ・初年次教育による高校と大学の接続―東北学院大学教養学部の場合― 片瀬 一男・葛西 耕市
・入試方法と学業成績―東北学院大学2009年度卒業生データの分析― 神林 博史

○報告

- ・2009年度「卒業時意識調査」報告 加藤 健二

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第2回

- ・東北学院（大学）の英語教育を考える 戸田 征男

第10集 2010年3月

○特別報告

- ・本学の教育課程改革にむけての私案 斎藤 誠

○研究報告

- ・AO入試に関する試論（3） 片瀬 一男
―なぜ入試改革は「失敗」しつづけたのか？―
：東北学院大学工学部の場合―
・日本の大学の「教養教育」の新たな動向
―日本社会や大学教育の構造転換の中で― 岩谷 信

○報告

- ・2009年度「新入生意識調査」について 教育研究所

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第1回

- ・「自己チュー」批判論の盲点
―予言された「ナルキッソスの死」の意味― 岩谷 信

第9集 2009年3月

○研究報告

- ・ A O入試に関する試論 (2) 片瀬 一男
—AO入試はA型学生を選抜したのか、それともO型学生に選好されたのか？
：東北学院大学文科系学部の場合—
- ・ 教養教育科目としての「キリスト教学」の意味と課題 佐藤 司郎
- ・ 性の多様性に対応する人権教育についての考察 魚橋 慶子

○報告

- ・ 「大学生の勉強法」を教える初年時授業
—「言語文化基礎演習」の授業内容とその改善プロセス 佐伯 啓
- ・ 学士課程教育のめざす方向とその背景 吉村功太郎

○図書紹介

- ・ 神永正博著『学力低下は錯覚である』 菅山 真次

第8集 2008年3月

○報告

- ・ 初年次教育としての「大学生活入門」—法学部における実践報告— 斉藤 誠
- ・ 社会変容とこれからの教養教育 佐々木俊三

○研究報告

- ・ A O入試に関する試論 (1)
—教養学部におけるA O入試入学者の成績を事例に— 片瀬 一男

○特別報告

- ・ 各大学の「大学教育センター」系組織とその特色
—本学の「教育力の向上」を目指して・準備資料— 教育研究所・所員会議

第7集 2007年3月

○特別報告

- 「大学教育への取り組みに関する調査」(2006年11月実施)
- ・ ユニバーサル化した大学における教員の苦悩
—東北学院大学の教員意識調査から— 片瀬 一男
- ・ 跋：調査報告書を読んで 副学長(学務担当) 大塚 浩司

○報告

- ・経済学科原級留の実態とその要因の調査報告 千葉 昭彦

○教育研究所所蔵図書紹介

- ・『恐るべきお子さま大学生—崩壊するアメリカの大学』 松本 洋之

第6集 2006年3月

○報告論文

- ・「工学基礎教育センター」の果たす役割と期待 石橋良信、星 善元、女川 淳
- ・文学部歴史学科におけるキャリア支援教育
—「就職の基礎」の〈解説〉を中心に— 楠 義彦

○研究報告

- ・ハビトゥスとしての読書の力
—東北学院大生の図書館利用と学業成績— 片瀬 一男

第5集 2005年3月

○報告論文

- ・成績分析からみた大学教育研究（4）
—アドミッションズ・オフィス方式による入学生の学業成績を中心に— 大江 篤志
- ・経済学科生の入試類型別成績
調査報告本学経済学科生の成績と入試類型との関連について 原田 善教
- ・退学者動向・調査報告（1） 教養学部の場合
意欲があって大学を去る者、意欲を失ってやめる者
二つの不幸な退学理由へのブール代数アプローチ 片瀬 一男

○特別報告

- ・教養学部「学生による授業評価」実施概要 教養学部授業評価委員会

第4集 2004年3月

○報告論文

- ・東北学院大学工学部における教育改善の試みと将来構想
石橋良信、星 善元、小野 孝、志子田有光、石川雅美
- ・カード利用による「事案のルール」獲得の可能性 陶久 利彦

- ・ 互恵を原則とした地域と大学との連携

—東北学院大学の社会教育実習・ボランティア活動の実践—

水谷 修

- ・ N P Oが大学と連携することの意義

—東北学院大学「ボランティア活動」への取り組み—

特定非営利活動法人グループゆう

中村 祥子

- ・ 東北学院大学と連携した講座造り実習の取り組み

仙台市中央市民センター 今川 義博

第3集 2003年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(3)

大江 篤志

入学類型と全学共通科目学業成績との関係を中心に

1. 課題と方法 (1)目的 (2)方法 分析対象とする学生／入学類型／全学共通科目／英語系科目A 1／英語系科目A 2／4科目の学業成績の関係
2. 全学共通科目の学科別学業成績平均 (1)キリスト教学系科目X 1 (2)キリスト教学系科目X 2 (3)英語系科目A 1 (4)英語系科目A 2 (5)4科目の学業成績の関係
3. 文学部 3-1英文学科 キリスト教系科目X 1. X 2 3-2史学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2
3. 経済学部 4-1経済学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2 4-2商学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2
4. 法学部法律学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2
5. 工学部 6-1機械工学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2 6-2電気工学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2 6-3応用物理学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2 6-4土木工学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2
1. 教養学部教養学科 7-1人間科学専攻 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2 7-2言語科学専攻 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2 7-3情報科学専攻 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2
2. 二部 8-1二部英文科 キリスト教系科目X 1. X 2 8-2二部経済学科 キリスト教系科目X 1. X 2／英語系科目A 1, A 2

3. 総括と検討 9-1主要入学類型の分布 男子／女子 9-2学科内部における学業成績の男女差 9-3入学類型別にみた学業成績の男女差 キリスト学系科目／英語系科目 9-4入学類型と学業成績 キリスト学系科目／英語系科目／キリスト教系科目と英語系科目の関係

おわりに

第2集 2002年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(2)

大江篤志・水谷 修、他

入学類型と学業成績との関係

4. 課題と方法 (1)目的 (2)方法
5. 文学部 2-1英文学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／英文科小括 2-2史学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／史学科小括
6. 経済学部 3-1経済学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／経済学科小括 3-2商学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／商学科小括
7. 法学部法律学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／法律学科小括
8. 教養学部教養学科 5-1人間科学専攻 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／人間科学専攻小括 5-2言語科学専攻 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／言語科学専攻小括 5-3情報科学専攻 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／情報科学専攻小括
9. 二部 6-1二部英文科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／二部英文学科小括 6-2二部経済学科 入学類型の分布／登録科目、放棄科目、学業成績／学業成績／二部経済学科小括

おわりに

第1集 2001年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(1)

大江篤志・水谷 修

はじめに

1. 各学科の学生構成 (1)問題関心 (2)学部学科別学生数 (3)各学科の男女比
2. 対象卒業生の成績